

1 部

学習サポート

各種申込締切について

- 『試験・スクーリング情報ブック2017』にてご確認ください。
 - ・ p. 4～5→学年暦　・ p. 16～21→通信教育部カレンダー
 - ・ p. 38～41→社会福祉士　演習・実習科目関連締切等
 - ・ p. 42～44→精神保健福祉士　演習・実習科目関連締切等

9 / 25 ～ 11 / 5 の追加・変更点

- 社会福祉援助技術演習 A（新潟会場）スクーリング追加開講
開講日：10/28・29　申込締切 9/30（『With』125号 p.72参照）
- 社会福祉士・精神保健福祉士「国家試験受験対策講義」
（第3回）10/21　全国統一模擬試験　※申込は9/15に終了
（第4回）11/3・4　最終確認編（p.56参照）

子どもを育てる専門家が 日本の未来を支えます

教員 MESSAGE

准教授 大関 信隆

認定こども園法改正にともなう幼稚園教諭免許状・保育士資格取得特例の講座（幼保特例講座）を受講の皆さん、こんにちは。「幼児理解と保育相談」を担当しております大関です。認定こども園が2006年に創設されてから、はや10年以上が経ちました。合計特殊出生率は低水準で一進一退を続けていますが、少子化の問題は依然叫ばれ続けています。同時に家族や働き方の在り方は多様化し、「子どもは少ないのに子どもに掛けられるリソースも少ない」という、子どもが豊かに成長するための環境としては厳しい現状が続いています。そのような中、保育という機能と幼児教育という機能を高度に融合し、質の高い保育教育を提供できる専門家は現代社会において非常に重要な存在と言えます。その専門家を目指し日々研鑽し続けている皆さんには本当に頭が下がる思いです。

私は長らく小児医療の現場で臨床心理士として仕事をしてきました。発達障害や不登校といった子どもの抱える適応上の問題について、子ども達とその養育者を心理学的視点から支援する仕事です。中でも発達障害を疑い来院し心理相談に繋がるケースは、発達障害に関する社会的認知が高まった部分を差し引いても、ここ10数年の間非常に多い割合で推移していると感じます。最近「世の中発達障害ばやり」などと揶揄されたりもしますが、私自身も「それでも発達の問題を抱えるお子さん達は確かに多いんだ」そんな風に考えていた時期もありました。

そんな中、ここ数年は保育所や幼稚園の先生方、そして児童館で学童期のお子さん達と接している先生方と一緒に仕事をするチャンスが少しずつ

増えてきました。対応に苦慮する子ども達への関わり方について勉強会をしたり、実際にその場に出向き、少しの時間ですが子どもや先生達と一緒に過ごす中で行動の様子を見せてもらったりする、そんな活動です。すると病院で接している子ども達と表面的な行動は似ていても、その根源的な部分がどこか異なる子ども達を多く目にするようになりました。人と上手に関われない、衝動が抑えられない、ルールが守れない、などなど以前なら真っ先に発達障害を疑うような行動を示す子ども達です。ですが同年齢の仲間達と上手に関われない子どもでも、対応の上手な先生となら一緒に、ある程度しっかりと、またしっかりと関わることができるのです。例えばそれは、他者に対する感度が育ちにくい自閉症スペクトラムの子ども達が示すような行動と、よく見ると異なっています。医療の中にいるだけでは見えてこないものも多くあるのだと、改めて感じた瞬間でした。

子どもの育ちは本人の持つ生物学的な要素と、子どもを取り巻く環境からの関わりのかげ算であるという考え方（相互作用説：Jensen, A. R.）があります。発達障害は脳の機能の問題と考えられていますので、上記の説では生物学的要素にあたります。そしてもう一つの柱、環境からの関わりの中で重要になる要素が「養育者の関わり」です。先にも述べましたが家族や働き方の在り方が多様化している昨今、この養育者の関わる力が、以前に比べて大きく様変わりしていると考えられます。だからこそ、幼児保育と幼児教育を両方とも担える皆さんはとても貴重な存在といえるのです。

これまでに本学の幼保特例講座を修了された方は、2014年度から数え約1300人を超えています。現在も約300人の方がこの講座に取り組みられています。ぜひその情熱をさますことなく修了を目指してください。ちなみに私の担当する「幼児理解と保育相談」、多くの皆さんが大変良い成績でク

リアされています。おそらくしっかりと教科書を読み学習されているのではと推察します。これから取り組まれる方はぜひ教科書を十分に読んだ「後に」試験に臨んでください。皆さんが講座を修め再び現場で活躍することができるよう陰ながら応援しています。頑張ってください。

スクーリング・アンケートより(1)

アンケートより、スクーリング講義の感想を抜粋しました。

●ボランティア論 小野 芳秀

- ・自分の考えていたボランティアは簡単に考えすぎていたことが分かりました。ニーズによって支援することは公的サービスだけではないこと、役割についてなど学ぶことができました。ボランティアについての実態も知ることができ、考えさせられました。
- ・先生自身の経験を聞くことにより、より身近に活動内容を感じることができました。

●情報処理Ⅰ 岩田 一樹

- ・エクセルの講義では、なぜこのような数式になるかということも含めて、とても丁寧に説明いただき分かりやすかった。
- ・実際に自分で進めて分からない点を、その都度聞くことができたため理解しやすかった。

●社会福祉原論（職業指導も含む） 田中 治和

- ・様々な文献を紹介していただいた点、聖書など文学として興味を持っていたものを教材としていて、楽しく興味深く聞けました。今まで受けてきた他の授業の先生方の講義内容と一致する点がいくつか見つかって理解が深まりました。
- ・先生の積み重ねてこられた研究を授業の中でお示しいただき、福祉は哲学だと感じました。福祉とはとてもデリケートな部分を掘り下げ、見つめ、向き合っていく難しさの中に、醍醐味があると思います。「好きなことは続けられる」先生の言葉を聴き、この道と出会ったのだから、これからも自分自身、成長しながら歩んでいきたいと思います。

●保健医療サービス論 山本 邦夫

- ・事例を基に話される講義は理解ができた。またそのうえで学習に対する興味関心がもてました。

●社会福祉援助技術論B 川口 正義

- ・迷いや揺れを感じながら現場で働いていて、だからこそ学ぶことにしました。しかし、机上の学びでは得られないものもあり、ゆれながら現場で尽くしていくことは悪いことではないことだと思い、安心しました。まずは基礎をしっかりと学びたいです。
- ・現場で働いているからこそ、対人援助に関わった人々の生の声を通し、そこから学び感じ、深く考えさせられた時間だった。これからソーシャルワークの現場に出て行く心構えができたのですごく貴重な授業でした。